

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

『青梅のにじ』

東京教区副議長・経堂北教会牧師 岸

俊彦



「にじのいえ信愛荘」との関わりは、「信愛荘」時代の運営委員となったことから始まりました。その後「にじのいえ」と「信愛荘」の合併が進められ、B棟が建てられました。合併の実りの一つとして『青梅のにじ』が創刊され、今号で第10号となります。年2回の発行ですから、「にじのいえ信愛荘」が誕生して5年目となります。その間編集委員として名を連ねていますが、名ばかりの委員で申し訳ないかぎりです。信徒の編集委員の方々は毎回編集、原稿依頼、発送作業と獅子奮迅のお働きです。そのおかげで、『青梅のにじ』は年に2回全国の教会に届けられています。執筆してくださる方々と編集委員の思いが一つとなって『青梅のにじ』

じ』はできあがっています。

これまでイースター礼拝で2度説教させていただいたり、B棟献堂式などなんらかのイベントの時に青梅の地をお訪ねするだけで、正直なところ「にじのいえ信愛荘」の普段の様子を知っているわけではありません。ただお訪ねすれば隠退教師や夫人の方々とお話しから様々な繋がりを発見し、驚いたり懐かしがったりします。教会の世界は世間以上に狭いと思わされます。それ以上に目には見えない主のネットワークが広く深く強く私たちを繋いでくださっているのだと思ひ直し、感謝し御名をほめたたえるばかりです。

訪れる者に出会いや発見の喜びを与えてくれるのは、入荘している方々、直接、間接にご奉仕してくださっている方々のお働きによります。この誌面の「近況報告」や「現地日記」を編集委員の責任として繰り返し注意深く読みます。スタッフの方々、

諸教会の皆さんが主のご用のために、いかに働かなくてはならないかが誌面から読み取ることができます。いかに「にじのいえ信愛荘」が主のみ栄えをあらわすために存在しているのか！このことを全国の諸教会に伝えるために、『青梅のにじ』の信徒編集委員は努力されています。そして、ぜひ「にじのいえ信愛荘」の働きに加わっていただきたいとの願いをもっています。全国の信徒、教師の皆さんに知って頂いて、訪ねて頂いて、祈って頂いて、献金して頂いて、共に「にじのいえ信愛荘」に繋がるひと肢となり、主のみ栄えのために共に働くことができたいと思います。

勝手な思いですが「にじのいえ信愛荘」のホーム・ページ、ブログができないでしょうか。神学校卒業後高齢者ホームで20年以上にわたり、月に2度集会で聖書の話をしました。それがどれほど牧師として成長の糧となったことでしょう。話しの内容はともかく若者を入荘者は大切にしてくださいます。若手の教師が「にじのいえ信愛荘」で活躍できればと思います。

クリスマス特集

お言葉どおりこの身に
成りますように



宮本 恵

聖書に登場する人物の多くは、神の特別な使命のために召し出されています。そして、その〈召し〉に対する受け答えはさまざまです。

神の民イスラエルの偉大な指導者であったモーセ、彼は召しを受けた時、徹底して拒み続けます。神が怒りを発せられるまで拒みました。しかし神の召しはモーセを圧倒します。「わたしはあなたと共にあって、語ることに、なすべきことを教えよう」とのみことばに依って、彼は自らの進退を神にお委ねしたのでした(出エジプト記3・1〜4・17)。

主イエスのご降誕の記事に登場する中心人物は、マリアです。彼女が神のみ業のために召されたとき、天使ガブリエルによつ

てみことばが告げられます。「おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる。」に続いて、「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた・・・」に始まる一連のみ告げに、「どうして、そのようなことがありえましょうか・・・」とマリアは戸惑い、いぶかります。それに対してガブリエルは親類のエリザベトの身に起こっていることを語り、「神に出来ないことは何一つない・・・」と告げます。マリアはこのことばに圧倒されたように「わたしは主のはしめです。お言葉どおり、この身に成りますように。」とお答えします(ルカ福音書 1・26〜38)。



マリアと三博士 渡辺禎雄版画

しかしマリアが平静でいられたはずはありません。誰かにこの不思議なみ告げのことを話し、何故自分がそのような役割を負わねばならないのかを聞きたい、と思ったでしょう。

―ルカ福音書2・19に、マリアの性格と言いますか、彼女の物事に対する姿勢をよく表現していることばがあります。「・・・心に納めて、思い巡らしていた」ということばです。この原意には、「注意深く心に留め、沈思、熟考する、深く精神を集中してあらゆる面、関係を理解しようとする」とあります。マリアのこのような姿勢に、その人柄がよく伺われます。2・51にもこれに似た意味のことばが使われています。

幾日も、マリアは繰り返し思い巡らしていたと思います。ヨセフに先ず聞いてもらいたいと思っただけでしょう。

やがてマリアの身に起こったことは、ヨセフの知るところとなり、彼もまた、その対応について思い巡らしていたのです。そのようなときに夢に現われた主の天使のみ告げに依り、彼はマリアを受け入れその身に起こること、彼女がこれから引き受

けねばならない役割を、共に負う決意が与えられます(マタイ福音書1・18〜24)。

マリアは思い立ってエリザベトを訪ねます。二人が出会ったとき、エリザベトが聖霊に満たされてマリアに語ったことばは、「あなたは・・・祝福された方です・・・主がおつしやったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」を聞いたとき、マリアは主なる神のみことばに信頼すること、みことばに自らをお委ねすることができたのだと思います。この記事のすぐ後に(マリアの賛歌)(ルカ福音書1・47〜55)が記されていますが、これはマリアが思い巡らしたことのすべてを背景に、主によって導かれた大胆な信仰告白であります。

主イエスのご降誕という神のみ業が成るために、〈召し〉に聴き従ってその役割を負った人たちが在ったこと、彼らは召されることによって神への全き信頼に生きる者とされたことを今、このときに覚えたい、そして何より「お言葉どおりこの身になりますように」という姿勢で、主をお迎えしたいのです。

(にじのいえ信愛荘 在荘)



クリスマスの思い出

きよしこの夜

飛田 悦子



私の生家はクリスマスチャンホームではありませんでしたが、一人篤信の祖母が居りましたので、毎月一回牧師が泊りがけで来られて、昼は子供の集まり、夜は大人の集会が持たれて居りました。そしてクリスマス！

この日には前日、裏山から持ち帰ったまだ雪のついてる杉の木を日本間に置き、上に大きな星をかざって、あとは何をつけたか覚えて居りませんが、私はいちばん下の枝に、お正月にはく靴下をぶら下げた日の事を今もなつかしく思い出して居ります。

そして、きよしこの夜のさんび歌を大きな声でうたって今日に至って居ります。

この日、子供達は集会のあと、プレゼントの袋とカードをもらって、雪の中を帰って行きました。

そして、夜は大人の集会です。

私は姉の横に座って、説教の間はいねむりをして居りましたが祝会になると、目をぱっちりあけて、最後までお相伴をして居りました。

今、九十路の坂を登りながらも、一人、あの日の思い出にひたりながら、きよしこの夜のさんび歌を口ずさんで居ります。

戦時中(娘時代)はキリスト教の集会はおろか一日、十五日には学校の授業を休んで、神社参拝をして居りました。

そして終戦です。クリスマスです。私は篤信の祖母を訪問される牧師のお話を聞いて、今日に至って居ります。

幼き日のクリスマス！

娘時代のクリスマス！

牧師になつてからのクリスマス！
そして今、静かににじのいえ信愛荘で、この歌を口ずさんで居ります。

きよしこの夜 星はひかり

すくいのみ子は まぶねの中に

ねむりたもう いとやすく

讃美歌 一〇九番

(にじのいえ信愛荘 在荘)



断片的に思い出すままに

伊藤 地塩



(1) 麻布美普教会時代、小学生の頃、2階の礼拝堂、両側に大きなクリスマスツリー。

(2) 教会が渋谷区豊分町へ移転(現在の日本基督教団広尾教会)昭和24年幼稚園創立、町名により豊分教会、豊分幼稚園、青年会、婦人会と燃火会(中学生)が独自に集会を持ち、クリスマスには合同のクリスマス礼拝と祝会、そして有志によりキャンドルサービス、その後、キャロリングに出掛けます。用意されている汁粉で暖をとる。婦人会員提供。豊分教会での祝会ではページェント、有志全員総出でよき交わりがもたれました。私は父・伊藤与雄牧師と共に戦後、横浜本牧教会と鶴見教会を兼牧していたので、戦後の焼け跡地の教会再建。東京・京浜地区の米軍兵舎の近隣に住む教会員を訪問。

(3) やっと再建した本牧教会でのクリスマス礼拝、同時に再来日のエベリン・ウルフ宣教師と

共に、横浜英和の宣教師館で守ったバイブルクラスのクリスマス祝会。途上の通称100段の階段の途中から見下ろす景観の美しさは見事。英語で讃美歌を沢山歌ったときの歓喜。当時としては珍しいコーヒート、手作りケーキを切り、分け与えられた時の感謝。

(4) 東京、世田谷三軒茶屋教会の奥・興牧師一家の家庭クリスマスに招かれたこと(当時、婦人矯風会の守屋東園長の大東学園に奥先生の紹介で聖書科講師をしていた関係上)牧師館に入ると部屋の上から、留学して居られたカナダからのものも含めて、クリスマスカードが沢山紐で吊るされて見事。私も以後まねて、豊分教会の牧師館でも飾りました。

その夜、奥ご夫妻の長女真里子さんはじめ、美香子さん、直人さんの三姉弟による寸劇、これには照子夫人も大喜び。その後、クリスマスプレゼントがクリスマスツリーの下に用意されていて、私にまで。土産も何も持たずに来た私にとっては、余りにも思いがけない出来事で、驚きと喜びで未だにクリスマス毎に思い出される感謝の一夜でした。(にじのいえ信愛荘 在荘)

青梅の梅の木

見逃された一本



吉川 幸子

先日、奥多摩線の電車に乗る予定で青梅駅まで行ったのだが、連絡が悪くて30分が待ちきれず、タクシーに乗ってしまった。行き先を告げた後は座席でボーッとしているわたしに、運転手さんは最近の青梅事情をいろいろ話してくれる。話題の中心は何といつても梅の木の伐採だ。

昨年春、連れて行っていたいた吉野梅郷「梅の公園」を思い出す。広大な山の斜面に咲き乱れる花々は約120品種、1500本に及ぶと云われている。

しかし、あの時すでに何本もが切り株になっていた。ウイルスに感染したのだそうだ。何とも心痛む。私は最後の華やかな山の姿を見る幸いに与ったわけである。あの木々が皆なくなってしまうなど想像もつかないではないか。この山だけではない。

市中の全て、各家の庭の木までが対象にされたのだという。

車は青梅街道を走りながら、話にはその先があつた。このために当地を訪れるお客さんが減ってしまったとのこと。美しい花が観られない、何年も梅干しが食べられないどころではない。披らの生活がかかっているのだ。

そろそろ目的地に着くころかなと思っていると、ある曲がり角で車が右折しようとした。その時、「あれ？これ梅の木？」と彼が急に声を高めた。歩道の一角に誰かがひよる長い棒を一本立てたという感じで、細い小さな木が生えている。子供が腕を切り取られたような傷跡が生なましい。確かに子どもの梅の木だ！

「此奴、見逃してもらったな。ハンドルを握ったままの顔は、とても嬉しそうだった。きつと彼の家の庭の木も切り倒されたのにちがいない。先き程のボヤキは、梅干しの問題ではなかったのだ。

それにしても、こんな細い体

に大きな傷を負ったままで、道ばたに一本残された。無事に成長して、何時の日か花をつけた姿を見たいものである。赤かな、白かな。

私は此処が何処か知らない。何時かどこかの曲がり角で梅の若木を見つけたら、私はあの木を思い起こそう。若し花が咲いていたら、あの木にも咲いていると信じよう。そして、あの広い山でもきつと、こうして残された木が何本もあることを信じよう。また、山が再び花で満ちる日を望もう。

「残りの者」が帰ってくる

用事を済ませ帰路につく。勿論今度は電車で。奥多摩線は単線である。小さな駅でも待ち人は案外多かった。ベンチに腰を下ろして「待つ人」の一人に加えられるながら、信仰者らしく？聖書の言葉を思っていた…。

「聖なる種族がその切り株である」「その林の木の残りは僅かであつて、童もそれを書き留めることが出来る」

「その日には生き残った者、残りの者は、真心をもつて神に帰る」「民は海の砂のようでも

残りの者だけが帰って来る」「エッサイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上に主の霊がとどまる」

「その日主は再び手を伸べて民の残れる者を贖われる」「見よ、神はわが救い。私は信頼して恐れない」。

イザヤ書より思い出すままに

「見逃がされた」

その昔、エジプトで助産婦らは神を恐れ、イスラエルの男の子を生かしておいた。あるレビの家に生まれた男の子は、ナイル河の葦の茂みに隠されたが、偶々王の娘に拾われ宮殿で育てられた。後のモーセである。

主イエスは、誕生後間もなくヘロデ王の殺意を逃れてエジプトへ行ったが、神は「わが子をエジプトから呼びだした」。まことに、神のご計画は計り難い。

今年もクリスマスが来る。罪の奴隷は贖われ自由の身になった。「今日ありて生くる喜び、今日ありて祈る幸い」(讃Ⅱ82)。

(にじのいえ信愛荘 在荘)

近況報告

莊長 有馬 歳弘

「にじのいえ信愛荘」を覚えてお祈りと献金、そして訪問をしてくださり親しいお交わりの時を用意して頂いたりで多くの感謝を与えられています。

冬は豪雪、そして夏は猛烈な暑さでした。在荘の皆様、スタッフも守られて感謝です。台風18号、続いて19号で緊張しましたが、ここ青梅は影響ありませんでした。各地の災害を知るに及んで、山の近くに建てられた荘ですので災害について大丈夫かとのご心配もいただいています。一応避難地域にはなっていますが消防署の方々はあまり心配しなくてもいいでしょうとの事です。ひとまずは安心です。しかし、火災という事故も考慮しますと、緊急体制についてスタッフ最低3人必要と考えて、施設長、現地調整委員の方々が配置に苦心して頂いています。

今は、秋の風を感じてひと息ついています。花壇も年を重ね

て落ち着いた風合いを造っています。中庭は自然の佇まいに配慮した草木になっています。和みを感じます。

行事計画

・春に予定していました菖蒲の花観賞は、あいにくの天候不順で中止となり残念でした。

・秋の紅葉狩りをしたいとの希望があります。青梅は少し遅い紅葉となりますので、楽しい一日を計画中です。

・「にじのいえ信愛荘」主催のクリスマス行事を予定しています。沢山の方々をお迎えして主の御降誕をお祝いしたいと願っています。

・毎月「お茶の会」が持たれています。この働きはボランティアの方々によって続けられています。みなさん楽しみにしております。

職員のことについて

◇施設長・松村誠一氏、事務長・濱田繁氏、介護主任・大野るり子氏、生活主任・三浦恵美子氏の職員を中心にパート、ボランティアの方々によって担われています。近年は高齢化が進

み、より一層寄り添う働きが大事になっています。仕える思いで働いてくださるのには嬉しい限りです。

働き人のためにもぜひご加勢ください。

新しく入荘された仲間

・千葉寿賀子姉（91歳）、10月2日に入荘されました。一緒に信仰者の交わりができる環境に喜んでおられます。讃美歌が大好きで、部屋の中で楽しそうに歌っておられるのが印象的です。

退荘された方

・高崎ワカ姉、9月2日。神戸に移られました。
・伊藤卓江姉、9月29日。八王子永生病院に入院されました。

在荘の皆様の様子

黒田愛子師、長谷川淳子師、山添和加姉、柏井宣夫師、浅野悦昭師がご入院中です。御快癒をお祈りください。

◇主日礼拝の説教は荘員の先生方によって担われてきました。最近、体調等の理由によって、説教なされる方が少なくなりました。お世話くださる方はご苦

労です。その中で、飛田悦子師は92歳で説教を担当されます。励まされています。外部の牧師達によって隙間は埋められており感謝しています。



2014年10月28日

慕わしい集い 「にじのいえ信愛荘」訪問

東村山教会

藤江 絹子

東村山教会は、「信愛荘」が創立された頃からお訪ねし、交流の時を持っていただくと教会の先輩方から聞いておりました。

今年90歳になられた石川さんにその頃の様子を伺うと、にこにこ懐かしそうに話してくださいました。

信愛荘に伺う日は、朝から教会でごはんを炊き、皆で手分けして持ち寄った具材を飾り、お寿司を作って伺い、荘の皆様と一緒にお昼を頂きました。楽しかったですよと。また80代の堀江さんは、午後からの訪問でしたが持参したお菓子を一緒に頂き、讃美歌を歌いましたと懐かしそうでした。1992年9月の『婦人会だより』には、「9月4日役員会後訪問しました。小さなかわいい訪問者、芳賀紫苑ちゃん、洋介ちゃんも一緒にした。」とあります。彼等も今は社会人です。2009年5月の訪問では、宿谷姉・松田姉の二



重唱、伴奏、野村の「いのちの歌」からまた「つ」を大変喜んでくださり、一緒に

口ずさむ方、楽譜が欲しいとおっしゃる方もありました。ここ二、三年はヴァイオリンの演奏も聴いて頂いております。演奏者の西宮姉は、最近私たちも知ったのですが、実は小平市の市民オーケストラのコンサートミストレスです。生の演奏はなかなか聴きに行けないからと、喜んで頂け嬉しく思っております。今年5月は、宿谷姉の歌も加わり、皆様に楽しんで頂けたようで私たちも嬉しかったです。毎回御一緒に讃美歌を歌う時、皆さまの来し方折々に讃美歌に重ねられた思いも伝わってくるようで、お年を重ねられた今も思いを託すように、一生懸命美しいお声で歌っていらつしやる姿に感動いたします。

数年前、私は皆さまとのお交わりのひととき、懐かしいお顔

に出会いました。ご病気のためか少し弱々しく見えましたが、きつとそうに違いないと確信し、翌年5月の訪問の時、昔先生とご一緒に撮った写真を持って伺い、先生にお声をかけました。写真をご覧になり、先生は「絹ちゃん！」と声を上げられました。「そうです。絹子です。」50年以上も前、私が中学一年生の時の写真です。それを一目ご覧に

なると「絹ちゃん」と幼名で呼ばれ私もびっくり感動しました。でも、まさかその頃からずっと音信不通だった池田貞子先生に、この信愛荘で再会できるなんて夢のようでした。と同じ東村山教会の前田姉も、池田貞子先生がおられた教会の付属幼稚園の先生をしていらしたそうで、再会の嬉しさが重なりました。池田先生と私たちは、毎年この「にじのいえ信愛荘」でお会いできるのを楽しみにしております。



筆者後列右から2人目

しゃってくださり楽しい笑顔の再会です。

日本全国、時には海外でも、神様のご用のために大きな力を出してこられた「荘」の先生方、奥様に親しくお目にかかり、いつもお一人、おひとりのご活躍の来し方を伺うのは、神様を信じて守られて生きる喜びが伝わる本当に大切な毎年の楽しみのひとつとさせていただきます。

いつまでもお元気だと心から願いつつ、再会を約してお名残惜しく「荘」を後にいたします。

チャリティコンサート

募金小委員会 西村 佳子

11月8日(土) 晩秋の青山学院・ガウチャー記念礼拝堂は、

一つの席も余すことなく来場者でいっぱいになりました。東京クロージャークラブ(同志社大学グリークラブの首都圏在住OBによる男声合唱団 指揮者・小林香太氏)の面々と、パイプオルガン・松浦光子氏、アルト・小川明子氏、ピアノ・谷あや氏が加

わるプログラムは、バッハ、デュリュフレの「祈りのうた」、懐かしい日本のうた、組曲「水のいのち」、どれも最上の捧げもの賛美の供えものとして奏でられました。音楽愛好家にも、また初めての方々にも、魂が満たされる時となりました。ご協力

いただいたクロージャークラブと演奏家の方々に、またご来場くださったお一人おひとりに心からのお礼を申し上げます。

今回も、青山学院大学のご厚意により、あのすばらしい礼拝堂を提供していただくことができました。また、クロージャークラブも「にじのいえ信愛荘のため

に」との献身のご奉仕により一切の謝礼をご辞退なさいました。

約700名の入場者により、おおよそ100万円(11月10日現在)の収益を賜うことができ、心から感謝申し上げます。

開場1時間前からロビーは来場者でいっぱい、開演時には2階席も満杯という中で、事故もなく終えられたのは、主の御守りがあつたからこそでした。

最後にあの素晴らしい演奏の陰には、合唱団の地道なためまぬ修練のあつたことを傍らで拝見し、今後のご活躍を心から祈ります。



奉仕部の働き

喜びとともに

尾野 明子

教区、支区の集会でミニバザーを開催しております。全国教会婦人会連合の小委員会である「にじのいえ信愛荘協力委員会」に連なる奉仕部には、東京教区5支区と西東京教区から各1名と、にじのいえ信愛荘協力委員1名の合計7名の委員と、ヘルパーが各支区・教区に2名ずつおります。

月2回の定例委員会では、毎月会計報告や各担当報告、値付け、教区や教会からの注文品の荷造り発送作業、商品の検討・確認、商品管理等をいたします。

ミニバザーを教区(3回)・支区(3~5回)、12月にはクリスマスセール、また、東京近郊の集会には委員が出向いての、食品・雑貨・衣料等の販売をいたします。

多くの方がたが商品を手にとられ購入してくださいます。励ましの声をかけられるたびに「にじのいえ信愛荘」を覚え、お支えくださる方が、多く与えられていることを痛感いたします。

奉仕部の収益はすべて「にじのいえ信愛荘」への協力金として荘に捧げられています。



維持献金 クリスマス献金をお願い

「にじのいえ信愛荘」を今後も継続的に維持、運営していくために一人でも多くの皆さまからの維持献金のご協力をお願いしています。専用の献金袋(個人)もありますのでご利用の上、各教会でまとめてご送金ください。また、クリスマス献金もなにとぞご協力くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

・振込口座番号

001200-3-358467

振込用紙/専用献金袋は

にじのいえ信愛荘事務局まで

TEL 0428-221-2283

莊日記



施設長 松村 誠一

●2014年5月

5日(月) スタッフ会、お茶会(23名)
13日(火) イースター委員会(反省会)
20日(火) 相愛教会来訪(8名)
21日(水) 東村山教会来訪(13名)
22日(木) 井上医院健診・運営委員会
26日(月) 誕生会・相談会

●2014年6月

2日(月) スタッフ会、給食会議、お茶会(29名)
5日(木) めぐみ幼稚園母の会来訪
8日(日) 河辺伝道所との合同礼拝
11日(水) クリスマス委員会
12日(木) 加藤實師青梅総合病院入院
17日(火) 厨房ガス点検
19日(木) 井上医院健診
26日(木) キリスト新聞取材(飛田悦子師、池田貞子師・宮本恵師)
27日(金) クリーンバスシステム点検、地下タンク点検
29日(日) 伊藤卓江姉第二青梅園入所
30日(月) 誕生会・相談会

●2014年7月

3日(木) 経堂緑岡教会来訪(23名)
伊藤卓江姉多摩総合医療センター入院
7日(月) スタッフ会、お茶会(22名)

8日(火) エアコン修理
15日(火) 婦人会連合4名片付奉仕
16日(水) 防火訓練(18名)
23日(水) 井上医院健診、運営委員2名書類片付奉仕
28日(月) 誕生会・相談会
29日(火) 荘の将来を考える会(運営委員4名)
30日(水) 河内信男介護主任補佐就任

●2014年8月

1日(金) 東京山手教会来訪(34名)
2日(土) 矢田部昌枝姉土日宿泊奉仕
4日(月) スタッフ会・給食会議
9日(土) 高円寺教会来訪
10日(日) 飯澤弘子委員土日宿泊奉仕
11日(月) 浜松教区委員安間さんのフルートを聴く会
16日(土) 横山利江姉土日宿泊奉仕
18日(月) 運営委員会監事の監査
21日(木) 井上医院健診、防災訓練
23日(土) 和久井義夫兄土日宿泊奉仕
25日(月) 誕生会・相談会
27日(水) 柏井宣夫師高木病院入院
29日(金) 伊藤卓江姉永生病院転院
30日(土) 豊後秀長兄土日宿泊奉仕

●2014年9月

1日(月) スタッフ会、お茶会(24名)
長谷川淳子師西東京ケアセンター入所、柏井宣夫師公立阿伎留医療センター転院
6日(土) 柏井宣夫師多摩リハビリテーション病院入院

11日(木) A棟エレベーター修理(近隣対策)
15日(月) 井草教会ボランティア来訪
24日(水) 高崎ワカ姉退荘
25日(木) 井上医院健診
28日(日) 東京・西東京教区幕前礼拝
29日(月) 誕生会・相談会
中庭植栽補充
30日(火) 伊藤卓江姉退荘

●2014年10月

2日(木) 全国教会婦人会連合来訪
千葉壽賀子姉入荘
6日(月) スタッフ会
10日(金) 西東京教区来訪
16日(木) 西南支区・東支区来訪
20日(月) 入荘規定小委員会(運営委員3名)
22日(水) 浅野悦昭師高木病院からキングスガーデンのショートステイ
23日(木) 井上医院健診
25日(土) 河辺伝道所来訪
27日(月) 誕生会・相談会
29日(水) A棟ボイラー年次点検
防災訓練

*8月より土日宿泊奉仕開始

第一週原則 矢田部昌枝姉
第二週原則 飯澤弘子委員
第三週原則 横山利江姉
第四週原則 和久井義夫兄
第五週原則 豊後秀長兄

あとがき

アドベントを迎えました。
第10号をお届けします。ご執筆くださいました皆さまには、心から感謝申し上げます。

荘では恒例の「クリスマス礼拝・祝会」を12月22日(月)に、深谷春男師(東京聖書学校吉川教会)を説教者として迎え、礼拝とご降誕をお祝いします。

ご健康を損なわれ、やむなくご入院しておられる先生方のためご加祷ください。また、介護をはじめお世話をするスタッフの皆さまの体調が維持されますよう覚えてお祈りください。

先日、昨年に続き福島に行く機会が与えられ、大地震、津波、原発の三つの被災に遭った被災地の様ざまな現状と課題を示されました。また、再訪した諸教会からは震災後新たに教会員を迎えた喜びの声を聴きました。

シャローム! (成松三千子)

編集委員会

長・成松三千子(柿ノ木坂教会)
石井泰子(小松川教会)
岸 俊彦師(経堂北教会)
黒沢咲子(下谷教会)
阪口和美(神奈川教会)
鈴木功男(目白教会)